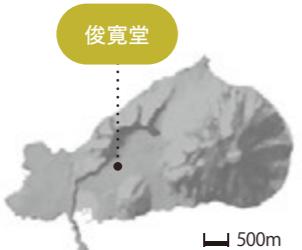




A 協力：京都市歴史資料館、京都市平安京創生館、京都アスミー（京都市生涯学習総合センター）

1



俊寛堂

500m

硫黄島地区 50代男性

思い出話

「前の俊寛能のときは合図で松明を投げて柱松に火をつけると、俊寛が見たであろう京の賑わいは、残った記録が鮮やかに蘇ってくれる。」

法勝寺の塔はその後260年間、平安京の空にそびえたが、1342年に火事の延焼で焼失する。日本最古の歴史文学とされる『太平記』は、京の住民が「公家も武家とともに衰えてゆく前兆ではないかと動搖した」と記録している。法勝寺の塔は、当時の京のランドマークであり、世の平和を象徴するものであつたとされる。

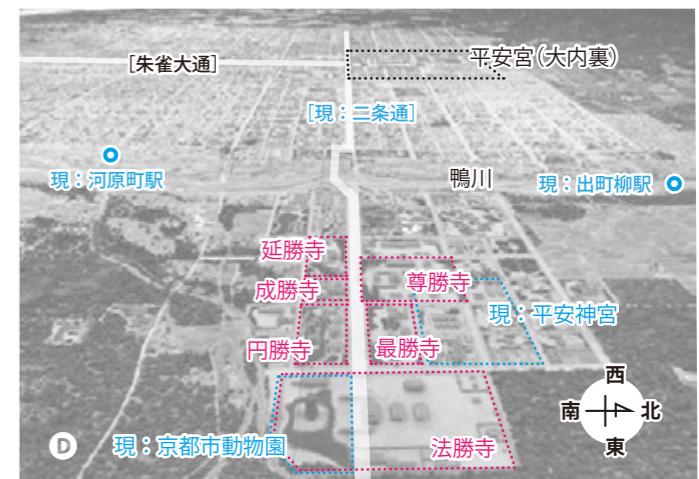
俊寛は、法勝寺の塔は、当時の天皇や寺の最初の寺で、敷地面積は約200m<sup>2</sup>と最も広い。塔は平安時代の京都で最も高い8.1mで、その構造は、日本建築史では類を見ない八角九重になつていて、この寺の由来や規模からも、俊寛がいかに権力に近い場所にいたか窺える。

俊寛は、法勝寺は、当時の天皇や寺の最初の寺で、敷地面積は約200m<sup>2</sup>と最も広い。塔は平安時代の京都で最も高い8.1mで、その構造は、日本建築史では類を見ない八角九重になつていて、この寺の由来や規模からも、俊寛がいかに権力に近い場所にいたか窺える。

俊寛は、硫黄島では流刑者としてよく知られるが、実は源氏の家系で家柄もよく、当時の権力層に近い人物でもあった。A 京都の平安京にいた頃の俊寛は、法勝寺（ほつしょうじ）に務め、寺の業務を行う位の高い僧であった。



法勝寺金堂と塔の間（2024年）  
写真は二条通を西から東へ向かう途上



俊寛の見た風景（平安京）

硫黄島